




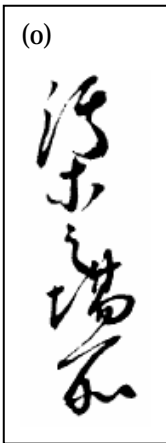










起筆と筆跡をよく見る




(n)は、最初の字が「当」に見えるかもしれませんが、確かに起筆は  ですが、下半分は  ではなく、 となっていて、 という感じの字から類推すると、「尚」という字が思い当たります。次の  が「文」に見えた方は、筆の動き方をもう一度確認してください。上の“点”に見える部分は「尚」という字の一部です。したがって、(n)は「尚又」です。ちなみに、「なおまた」という言葉は良く出てきますが、「尚」「猶」「又」「亦」などが組み合わされて使われます。






(o)は、最初の  は、第32回で出てきた「汚」です。次の  は、そろそろ慣れてきたと思いますが、「等」。次の  の部分は、これが2文字だとわかれば、難しくありません。上が「之」、下は  という部分と、 という部分があることがわかりますから、「場」でしょう。最後の  は、難し

い字ですが、(o)を通してみると「汚等之場  」なので、「場所」？という想像もできます。実は、 は「所」という字で、頻出する字です。これも“暗記してしまった方がよい字”です。

(p)は、下の  が、かなり複雑には書いてありますが、「度」と読めると思います。「慶」に見えた方もいるかもしれませんが、ここは「慶」ではありませんが、いろいろな字が浮かぶ方が、選択肢も増えますから、良いことだと思います。



さて、上の字の  ですが、起筆の  の部分と最後の  の部分から、「急」という字が思い当たると思います。「急度」で「きっと」と読みます。これは、逆に「急度」という熟語を知っていれば、そこから類推できる字です。

史料（前略）右墨付或者紙生地等有之跡宿より申継候趣、持夫之者より申聞候ハ、其段請取書江書入、(n)、先宿江右(〇)、跡宿より申継之趣、(p)差状二(q)、(r)、(s)之通可取斗、併御取扱之節、万(一)不調法等(u)、差状二無之上者、(以下略)